

令和8年度

運営に関する計画

【目標設定】

大阪市立野田小学校

令和8年4月

1 学校運営の中期目標

現状と課題

本校の強みは、児童が安心して過ごせる落ち着いた教育環境である。学校アンケートにおいて「安全で居心地がよい」と感じている割合が高く、「いのち・いじめについて考える週間」や日常の学級経営を通して人権意識や集団づくりを進めるとともに、地域の見守り活動との連携により安全・安心な環境が維持されている。一方で、いじめの未然防止、不登校支援の充実、学力格差の解消、主体的な学びの深化、ICT 活用の質的向上などの課題も明らかとなっている。今後は、これらの強みを生かしながら課題の解決に向けて、全教職員が共通理解のもと、組織的かつ計画的に取組を推進していく必要がある。

【安全・安心な教育の推進】

令和7年度の学校アンケートの結果において、「学級や学校は安全で居心地がよい」と回答した割合は児童 97%、保護者 96%と非常に高く、安心して学べる環境が整っているといえる。また、「きまりやルールを守っている」97%、「自分にはよいところがある」84%と、規範意識や自己肯定感の育成も着実に進んでいる。さらに、「いじめはどんな理由があってもいけない」と回答した児童は80%に達しており、いじめに対する意識の向上も見られる。

一方で、いじめの認知件数は211件であり、早期発見・早期対応の体制は機能しているものの、トラブルの未然防止やより良い人間関係づくりに向けた取組の一層の充実が課題である。また、不登校在籍比率は4.7%と低水準であるが、改善率が0%であることから、継続的な支援の在り方や組織的な対応の強化が求められる。加えて、情報共有や支援ツールの活用についても教職員間でばらつきが見られることから、より一層の連携体制の強化が必要である。

<令和4～7年度に取組むべき課題>

- 全教職員でいじめの未然防止や早期発見・早期対応に努め、他人の気持ちを考え、全教育活動を通して助け合いや思いやりあふれる児童の育成に努める。
- 不登校児童に対して、校内支援体制を構築するとともに、関係機関と連携した継続的・組織的な支援を推進する。
- 児童の活躍の場を積極的に設定するとともに、承認・賞賛の場を増やし児童の自己肯定感を高める。
- 豊かな人間関係を育むことができるよう、日常の学級づくりや集団づくりを重視するとともに、異学年交流や縦割り班活動の充実を図り、互いを認め合う関係づくりを意図的・計画的に推進する。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

令和7年度の全国学力・学習状況調査において国語科の正答率は62%と全国平均(66.8%)に近い水準を維持しているほか、小学校学力経年調査では現6年生で対全国比1.15、現4年生で1.01と、全国平均を上回る学年も見られ、日々の授業改善の成果が表れている。また、「進んで学習に取り組む」児童の増加や、「話し合い活動を通して考えを深める」児童が49%に達するなど、主体的・対話的な学びも着実に広がっている。

しかしながら、学年間・教科間のばらつきが見られ、安定した学力の定着には課題がある。特に、正答率50%未満の児童が算数において現5年生16人、現6年生16人と一定数存在しており、基礎的・基本的な内容の確実な定着が求められる。また、「学習内容や方法を自ら選ぶ」と回答した児童は87%と目標(90%)に届いておらず、主体的な学びのさらなる深化が必要である。

体力面では、「運動が好き」と回答した児童は 73%と目標を達成しており、運動への意欲の高まりが見られる。一方で、体力テストの結果は全国平均をやや下回る傾向にあり、日常的な運動習慣の確立や体力向上に向けた継続的な取組が課題である。

＜令和 4～7 年度に取組むべき課題＞

- 「考え、表現する学び」「話し合う学び」「めあてを振り返る学び」を通して、児童が「わかった」「できた」という成就感や達成感を得られるよう、学習活動を工夫する。また、学習形態を工夫し、児童の実態に応じたきめ細やかな指導を行うことで、基礎・基本の定着と同時に自ら学び考える力の育成を図る。
- 児童が学習内容や方法を選択できる場面を意図的に設定し、主体的な学びの充実を図る。
- 体育行事や体育学習等を通じた基礎的運動能力を向上させるための取組みを、年間を通して計画的に実施する。
- 感染症予防の日常指導に取組むとともに、健康に関する正しい知識や、よりよい生活習慣を身に付けるようにし、健康や体力を増進する力の育成を図る。

【学びを支える教育環境の充実】

ICT 活用については、学習用端末の活用が年間授業日の 42.4%まで進むなど大きな改善が見られ、調べ学習や意見共有、共同編集など、授業の中で活用する場面が広がってきている。また、教職員の成長実感は 100%となり、ICT 研修や日々の実践を通して指導力の向上が図られている。さらに、ストレスチェックの総合健康リスクも 131 から 83 へと改善しており、働きやすい環境づくりが着実に進んでいる。加えて、保護者からの肯定的評価も 99%と高い水準にあり、学校の実践に対する信頼も高まっている。一方で、ICT 活用については、教職員や学級によって活用頻度や活用方法に差が見られ、日常的に活用している学級とそうでない学級があるなど、取組にばらつきがある。活用内容についても、調べ学習や提示にとどまる場合があり、学びを深めるための効果的な活用や、個別最適な学び・協働的な学びにつながる活用の充実が課題である。

さらに、教職員の業務に負担の偏りが見られることから、業務の見直しや役割分担の工夫が必要である。

今後は、ICT 活用の好事例の共有や研修の充実を通して活用の質と平準化を図るとともに、校内の情報共有体制の強化や業務の効率化を進め、持続可能で効果的な教育環境の構築に向けた取組を一層推進していく必要がある。

＜令和 4～7 年度に取組むべき課題＞

- 学習者用端末を積極的に活用するとともに、ICT 活用の好事例を校内で共有し、授業における効果的な活用（個別最適な学び・協働的な学び）の普及を図る。
- ICT 機器を活用することで児童の心の状態や日々の生活の状況を可視化し、児童理解を深め、いじめ・不登校などの未然防止・早期発見・迅速な対応に取組む。
- 様々な教育課題の対応を円滑に行うことができるよう、業務の見直しや役割分担の工夫を行うことで、児童一人一人に寄り添うための時間の確保や、教職員の健康保持及び長時間勤務の解消に取組む。
- 学校だよりやホームページを活用し、保護者や地域に向け、学校の様子を積極的に情報発信するとともに、家庭学習や家庭教育の充実に向けて保護者への啓発を図る。

中期目標

※ ◎は教育振興基本計画に掲げる目標を達成するための年度目標
○は学校が独自に設定した年度目標

【安全・安心な教育の推進】

- 令和 11 年度の校内調査における「学級や学校は、安心してすごせる居心地のよい場所になっていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 95%以上にする。【新規項目】
- ◎ 令和 11 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を 0%にする。【R7:4.7%】
- 令和 11 年度末の校内調査における「先生や友だち、見守り隊の人などの地域の人に会ったときは、すすんであいさつをしていますか。」に対して、最も肯定的な「そう思う」と答えた児童の割合を 65%以上にする。【R7:58.6%】
- 令和 11 年度末の校内調査における「授業の始まりのチャイムが鳴ったときに、いつも学習の準備をして席についていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 80%以上にする。【新規項目】
- ◎ 令和 11 年度の小学校学力経年調査における「自分には、よいところがありますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 87%以上にする。【R7:83.6%】
- ◎ 令和 11 年度の小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思えますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 93%以上にする。【R7:89.9%】

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ◎ 令和 11 年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 93%以上にする。【R7:87.0%】
- 令和 11 年度の校内調査における「授業では、自分からすすんで学習にとりこんでいますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を 55%以上にする。【R7:49.0%】
- ◎ 令和 11 年度の小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることが好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 93%以上にする。【R7:87.8%】
- 令和 11 年度の校内調査における「病気になるないように、しっかり手あらいをするようにしていますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を 85%以上にする。【R7:77.6%】

【学びを支える教育環境の充実】

- ◎ 令和 11 年度の小学校学力経年調査における「授業で学習者用端末をどの程度使用しましたか」に対して、週3回以上と回答する児童の割合を 80%以上にする。【R7:61.4%】
- ◎ 令和 11 年度のストレスチェックにおける総合健康リスクの数値を 大阪市平均値の90%以下にする。【R7:本校83、大阪市小学校平均87】
- 令和 11 年度の校内調査における「学校は、保護者や地域の方たちとコミュニケーションを図るように努めていると思われませんか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する保護者の割合を 55%以上にする。【R7:46.8%】
- 令和 11 年度の校内調査における「学校の教育方針は伝わっていると思われませんか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する保護者の割合を 40%以上にする。【R7:35.2%】

2 中期目標の達成に向けた年度目標

年度目標

※ ◎は教育振興基本計画に掲げる目標を達成するための年度目標
○は学校が独自に設定した年度目標

【安全・安心な教育の推進】

- 年度末の校内調査における「学級や学校は、安心してすごせる居心地のよい場所になっていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。【新規項目】
- ◎ 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を0%にする。【R7:4.7%】
- 年度末の校内調査における「先生や友だち、見守り隊の人などの地域の人に会ったときは、すすんであいさつをしていますか。」に対して、最も肯定的な「そう思う」と答えた児童の割合を60%以上にする。【R7:58.6%】
- 年度末の校内調査における「授業の始まりのチャイムが鳴ったときに、いつも学習の準備をして席についていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合80%以上にする。
【新規項目】
- ◎ 令和8年度の小学校学力経年調査における「自分には、よいところがありますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。【R7:83.6%】
- ◎ 令和8年度の小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を91%以上にする。【R7:89.9%】

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 小学校学力経年調査における、国語・算数の学力に課題の見られる児童の割合を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度よりも減少させる。

【正答率50%未満の児童の人数】

国語科	現4年生	現5年生	現6年生
令和6年度		28.1%	13.7%
令和7年度	11.3%	18.5%	5.5%
令和8年度			

算数科	現4年生	現5年生	現6年生
令和6年度		23.8%	13.9%
令和7年度	14.1%	25.4%	11.0%
令和8年度			

- ◎ 令和8年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。【R7:87.0%】
- 年度末の校内調査における「自分で学習内容や学習方法を決めたり、選んだりしたことがありますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答をする児童の割合を49%以上にする。【R7:47.9%】
- 年度末の校内調査における「授業では、自分からすすんで学習に取り組んでいますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を51%以上にする。
【R7:49.0%】
- ◎ 令和8年度の小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることが好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。
【R7:87.8%】

- 年度末の校内調査における「病気になるないように、しっかり手あらいをするようにしていますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を 80%以上にする。【R7:77.6%】
- 年度末の校内調査における「すききらいせず、給食を食べるようにがんばっていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 75%以上にする。【R7:73.7%】

【学びを支える教育環境の充実】

- ◎ 令和8年度の小学校学力経年調査における「授業で学習者用端末をどの程度使用しましたか」に対して、週3回以上と回答する児童の割合を 70%以上にする。【R7:61.4%】
- ◎ 令和8年度のストレスチェックにおける総合健康リスクの数値を昨年度より減少させる。【R7:本校83、大阪市小学校平均87】
- 年度末の校内調査における「学校は、保護者や地域の方たちとコミュニケーションを図るように努めていると思われませんか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する保護者の割合を 50%以上にする。【R7:46.8%】
- 年度末の校内調査における「学校の教育方針は伝わっていると思われませんか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する保護者の割合を 37%以上にする。【R7:35.2%】
- 年度末の校内調査における「学校は、子どもたちが安全で安心して学ぶことができるような教育環境づくりに努めていると思われませんか」に対して、最も肯定的な「そう思う」の回答の割合について 60%以上にする。【R7:52.5%】

大阪市立野田小学校 令和8年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【安全・安心な教育の推進】</p> <p>○ 年度末の校内調査における「学級や学校は、安心してすごせる居心地のよい場所になっていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を <u>90%以上</u>にする。</p> <p>【新規項目】</p> <p>◎ 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を <u>0%</u>にする。【R7:4.7%】</p> <p>○ 年度末の校内調査における「先生や友だち、見守り隊の人などの地域の人に出会ったときは、すすんであいさつをしていますか。」に対して、最も肯定的な「そう思う」と答えた児童の割合を <u>60%以上</u>にする。【R7:58.6%】</p> <p>○ 年度末の校内調査における「授業の始まりのチャイムが鳴ったときに、いつも学習の準備をして席についていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を <u>80%以上</u>にする。【新規項目】</p> <p>◎ 令和8年度の小学校学力経年調査における「自分には、よいところがありますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を <u>85%以上</u>にする。【R7:83.6%】</p> <p>◎ 令和8年度の小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を <u>91%以上</u>にする。【R7:89.9%】</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成 状況
<p>取組内容①【1 安全・安心な教育環境の実現（いじめ・不登校への対応）】</p> <p>○日頃から児童の人間関係を丁寧に見取り、学級集団づくりを通して児童間のつながりを育むなど、教育活動全体を通していじめの未然防止に全教職員で取り組む。また、「いのち・いじめについて考える週間」の取組を通して、児童および教職員のいじめに対する意識の向上を図る。さらに、年間3回のいじめアンケートやQ-U（楽しい学校生活を送るためのアンケート）、学習者用端末の相談申告機能の活用により、児童の実態把握といじめの早期発見・早期対応に努める。各学年の児童の状況については、生活指導連絡会において教職員間で共有するとともに、いじめを認知したケースについては、いじめ対策委員会を中心に児童の状況を共有し、事実確認を含めた対応を組織的に進め、その解消に取り組む。</p> <p>○すべての児童が安心して過ごせる居場所づくりを基盤に、日常的な観察や教育相談による未然防止と早期対応に取り組むとともに、一人一人の状況に応じてサポートルームやオンライン学習等を活用する。また、不登校対策委員会を中心に情報共有と支援方針の協議を行い、保護者や関係機関と連携した組織的な支援体制を構築する。</p>	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「いのち・いじめについて考える日」（校長講話、学級指導、児童会の取組等）の取組を各学期1回実施し、併せていじめアンケートを行う。 ・Q-Uを6月と12月の年2回実施する。 ・不登校の児童はもとより、不登校傾向のある児童についてもいじめ・不登校対策委員会において情報を共有し、具体的な支援策や対応方法を検討する。 ・生活指導連絡会を月に1回以上設定し、生活指導上の課題や配慮を要する児童の状況、児童や保護者への対応についての課題や教職員の困り感について共有し、組織的な支援につなげる。 	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
次年度への改善点	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成 状況
<p>取組内容②【1 安全・安心な教育環境の実現（規範意識の醸成）】</p> <p>○毎月の生活目標を設定して意識化を図るとともに、生活目標の取組評価や生活指導上の課題について、生活指導連絡会をはじめ職員朝会、職員会議等で成果や課題を共有し、指導の在り方を共通理解した上で、全教職員で継続的・組織的に指導にあたる。</p> <p>○生活指導の重点として「時間を大切にする子どもの育成」「進んであいさつができる子どもの育成」を位置付け、チャイム着席の徹底や時間を意識した行動の指導、日常的なあいさつの声かけや指導を行うとともに、よい行動を認め広げる取組を通して、学校全体で定着を図る。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活指導部と児童会活動部等が連携し、「あいさつ」「廊下階段安全歩行」の強調週間を学期に1回以上実施する。 ・チャイム着席の徹底に向けて、全学級において毎時間の授業開始前に着席を確認するとともに、遅れが見られる場合はその場で個別に指導して習慣化を図る。 ・生活指導連絡会で共有した内容を、毎週の児童朝会で看護当番から全体指導する。 ・教育活動全体を通して、児童一人一人のよさを賞賛したり、友だちから認められたりする場の設定を工夫し、年間を通して各学級（学年）や学校全体で取組む。 	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
次年度への改善点	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
<p>取組内容③【2 豊かな心の育成（豊かな人間関係づくり）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○授業や学校生活の中で、児童が主体的に考え、判断する機会を充実させるとともに、児童一人一人が力を発揮し、そのよさを認め合える集団づくりをめざし、学校全体で取組む。 ○校外学習や宿泊行事、交流活動、芸術鑑賞等の多様な体験活動を通して、児童が主体的に活躍できる場を設定することで、豊かな心を育むとともに、承認・賞賛の機会を増やし、自己肯定感の向上を図る。 ○異学年交流や縦割り班活動を年間計画に位置付け、遊びや清掃、行事等で継続的に関わる機会を設けるとともに、上級生が下級生を思いやる場面や協力する活動を充実させることで、豊かな人間関係の育成を図る。 <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校外学習（年2回以上）、宿泊行事（対象学年で年1回）、芸術鑑賞（年1回以上）等の体験活動を実施し、その中で行事ごとに児童が主体的に役割を担う場面を各学年の実態に応じて設定するとともに、活動後の承認・賞賛の機会を各行事後に必ず設ける。 ・異学年交流を各学年で年1回以上、縦割り班活動を年間20回以上実施し、継続的な関わりの中で人間関係の育成を図る。 ・特別支援教育全体会や配慮を要する児童の共通理解の場を年に上半期に1回、下半期に1回、計2回実施する。 	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
次年度への改善点	

大阪市立野田小学校 令和8年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標				達成状況
【未来を切り拓く学力・体力の向上】				
○ 小学校学力経年調査における、 <u>国語・算数の学力に課題の見られる児童の割合</u> を、同一母集団において経年的に比較し、 <u>いずれの学年も前年度よりも減少</u> させる。				
【正答率 50%未満の児童の人数】				
国語科	現4年生	現5年生	現6年生	
令和6年度		28.1%	13.7%	
令和7年度	11.3%	18.5%	5.5%	
令和8年度				
算数科	現4年生	現5年生	現6年生	
令和6年度		23.8%	13.9%	
令和7年度	14.1%	25.4%	11.0%	
令和8年度				
◎ 令和8年度の小学校学力経年調査における「 <u>学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか</u> 」に対して、肯定的に回答する児童の割合を <u>90%以上</u> にする。【R7:87.0%】				
○ 年度末の校内調査における「 <u>自分で学習内容や学習方法を決めたり、選んだりしたことがありますか</u> 」に対して、最も肯定的な「 <u>そう思う</u> 」と回答をする児童の割合を <u>49%以上</u> にする。【R7:47.9%】				
○ 年度末の校内調査における「 <u>授業では、自分からすすんで学習に取り組んでいますか</u> 」に対して、最も肯定的な「 <u>当てはまる</u> 」と回答する児童の割合を <u>51%以上</u> にする。【R7:49.0%】				
◎ 令和8年度の小学校学力経年調査における「 <u>運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることが好きですか</u> 」に対して、肯定的に回答する児童の割合を <u>90%以上</u> にする。【R7:87.8%】				
○ 令和8年度の校内調査における「 <u>病気にならないように、しっかり手あらいをするようにしていますか</u> 」に対して、最も肯定的な「 <u>そう思う</u> 」と回答する児童の割合を <u>80%以上</u> にする。【R7:77.6%】				
○ 年度末の校内調査における「 <u>すききらいせず、給食を食べるようにがんばっていますか</u> 」に対して、最も肯定的な「 <u>思う</u> 」と回答する児童の割合を <u>75%以上</u> にする。【R7:73.7%】				

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
<p>取組内容④【4 誰一人取り残さない学力の向上（子どもの資質・能力向上）】</p> <p>○全学年で日常的に「考え、表現する学び」「話し合う学び」「めあてを振り返る学び」を大切に授業づくりに取組むとともに、児童が「わかった」「できた」を実感できるよう学習活動や板書、教材・教具等を工夫する。</p> <p>○日常の授業と併せて、パワーアップタイム等を活用し、学習内容の振り返りや反復学習に取り組み、基礎・基本の確実な定着を図るとともに、児童が自ら学習方法を選択したり、学習内容を決定したりしながら考えを深める学習活動を充実させることで、主体的に学び続ける力の育成をめざす。</p> <p>○全学年で自主学習に計画的に取り組み、主体的に学習に取り組む態度を養うとともに、学習習慣の定着を図る。</p> <p>○3～6年の外国語活動、外国語科の指導に加え、小学校低学年からの英語力向上をめざし、全学年での英語モジュール授業を週20分間実施する。</p> <p>○学校図書館支援員と連携し、図書館や学級文庫の充実を図るとともに、読書習慣の定着に向けた取り組みを推進する。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目的や方法を明確にした話し合い活動や、クラウドを活用した意見の共有を通して、児童が自分の考えを深めたり広げたりする学習活動を、週に3回以上実施する。 ・市「総合的読解力育成カリキュラム」に基づく学習を年間35時間実施するとともに、その中で市作成教材を活用した単元を年間1単元以上設定する。 ・全学年で自主学習に取り組むとともに、クラウドを活用して他の児童の自主学習を見て参考にするなどの活動を通して、自主学習の習慣化を図る。 ・授業の中で、難易度や学習順序を児童自身が選択・決定できる場面を各学年の実態に応じて工夫する。 ・毎日のパワーアップタイムでは、各学年の実態に応じて、基礎・基本の定着を図る学習とともに、すべての児童が自分の課題や目標に応じて学びを深めたり広げたりする活動を行う。また、毎週火曜日・金曜日に各10分間、全学年で英語モジュール学習を行う。 ・朝読書を週1回実施し、読書習慣の定着を図るとともに、「図書だより」を学期に1回以上発行し、おすすめ図書の紹介や家庭での読書の工夫等について情報発信を行う。 	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
次年度への改善点	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
<p>取組内容⑤【4 誰一人取り残さない学力の向上（教員の指導力向上）】</p> <p>○児童の実態をふまえ、各自で設定した研究テーマに基づいた実践を日々の授業の中で積み重ねるとともに、授業研究及び研究協議会等の機会に学校全体で共有する等を通して、教員自身が主体的に実践研究に取り組む。</p> <p>○研究全体会や校内研修会を実施し、授業規律の統一や授業づくりの共通理解を学校全体で図り、教員の指導力向上に取り組む。</p> <p>○教員一人一人が自己の課題意識に基づいて主体的に研修に取り組むとともに、校内外の研修や研究成果を積極的に取り入れ、その成果を日々の授業に生かすことで、専門性と実践力の向上を図る。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各教員が設定した研究テーマに基づく実践を日常の授業で継続的に行うとともに、指導力の向上を目指し、全教員が年間1回の公開授業を実施する。 ・研究全体会や校内研修会を年間3回以上実施し、授業づくりに関する視点や指導方法について共通理解を図る。 ・各教員が校内外の研修に学期1回以上参加するとともに、その成果を日常の授業に反映させる。 	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
次年度への改善点	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
<p>取組内容⑥【5 健やかな体の育成（子どもの体力向上）】</p> <p>○学校全体や各学年で、かけ足、なわとび、サーキットトレーニングなどの取組について年間を通して計画的に実施することを通して、児童が達成感を味わいながら継続的に取り組めるよう工夫し、基礎的運動能力の向上を図る。</p> <p>○日常の体育科の授業において、「できた」「わかった」「あきらめずに取り組んだ」と実感できるよう、めあての明確化や個に応じた支援、スモールステップでの指導を工夫する。また、ペアやグループでの関わり合いを取り入れ、互いに認め合う場や達成感を味わえる振り返りの充実を図ることで、意欲的に運動に取り組む態度の育成につなげる。</p> <p>○休み時間に運動場での外遊びを促すとともに、学級あそびや学年集会、きょうだい学年交流、たてわり班活動等、体育科の授業以外の場でも多様な動きを取り入れ、体力向上につなげる。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 各学年で、かけ足やなわとび、サーキットトレーニング等の取組を計画的に実施するとともに、全校での取組期間を年間1回以上設定し、内容については児童の実態に応じて、かけ足やなわとび等から選択して実施することで、継続的な実践につなげる。 体育科の授業において、ペアやグループでの関わり合いの場面を設定するとともに、スモールステップでの指導や個に応じた支援を毎時間行う。 休み時間の外遊びについて、日常的に全教職員による声かけを行うとともに、外遊びの紹介や例示を運動委員会の活動として年間2回以上実施し、運動に親しむ機会の充実を図る。 	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
次年度への改善点	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成 状況
<p>取組内容⑦【5 健やかな体の育成（健康教育）】</p> <p>○保健だよりや学級指導を通して健康に関する指導を行い、感染症予防のための正しい手洗いの方法を周知するとともに、日常的な実践の徹底を図る。また、手洗いや清潔なハンカチの携帯を習慣化できるよう、児童の衛生に対する意識の向上に努める。</p> <p>○栄養指導や食育の授業、給食指導等を通して「食」への関心を高めるとともに、家庭への啓発を行い、「早寝・早起き・朝ごはん」の基本的な生活習慣の定着を図る。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康生活週間を学期1回以上実施し、期間中は毎日、手洗いの具体的な指導とチェックカードによる振り返りを行うとともに、「ほけんだより」による家庭への啓発を各回1回以上実施する。 ・栄養指導を各学級年間1回以上行うとともに、「食育だより」を月1回以上発行し、児童の食への関心を高めるとともに家庭への啓発を図る。 	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
次年度への改善点	

大阪市立野田小学校 令和8年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【学びを支える教育環境の充実】</p> <p>◎ 令和8年度の小学校学力経年調査における「授業で学習者用端末をどの程度使用しましたか」に対して、週3回以上と回答する児童の割合を <u>70%以上</u>にする。 【R7：61.4%】</p> <p>◎ 令和8年度のストレスチェックにおける総合健康リスクの数値を<u>昨年度より減少</u>させる。【R7：本校83、大阪市小学校平均87】</p> <p>○ 年度末の校内調査における「学校は、保護者や地域の方たちとコミュニケーションを図るように努めていると思われませんか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する保護者の割合を <u>50%以上</u>にする。【R7：46.8%】</p> <p>○ 年度末の校内調査における「学校の教育方針は伝わっていると思われませんか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する保護者の割合を <u>37%以上</u>にする。 【R7：35.2%】</p> <p>○ 年度末の校内調査における「学校は、子どもたちが安全で安心して学ぶことができるような教育環境づくりに努めていると思われませんか」に対して、最も肯定的な「そう思う」の回答の割合について <u>60%以上</u>にする。【R7：52.5%】</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
<p>取組内容⑧【6 教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進（ICTの活用）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習者用端末を日常的に活用し、デジタル教材や学習アプリの活用、課題の選択等を行うことで個に応じた学びを充実させるとともに、意見共有や共同編集機能を活用した協働的な学びを推進する。 ○学習者用端末を活用して児童の心の状態や生活の様子を把握し、児童理解を深める。また、気になる変化を早期に共有し、組織的に対応することで、いじめ・不登校の未然防止・早期発見・迅速な対応につなげる。 ○ICT機器の活用研修を計画的に実施し、基本操作の習得から授業での効果的な活用方法まで段階的に学ぶとともに、実践事例の共有やミニ研修等を通して教職員の活用力を高め、日常の授業への活用を促進する。 	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習者用端末を各授業で毎日活用し、デジタルドリルや学習アプリ、課題選択を取り入れた学習を週3回以上設定するとともに、意見共有や共同編集機能を活用した協働的な学びの場面を学年の実態に応じて計画的に設定する。 ・学習者用端末の「心の天気」や「相談申告機能」を活用した児童の心や生活の状況把握を毎日実施し、気になる変化については速やかに学年間や特別支援担当、管理職に共有するとともに、組織的な対応につなげる。 ・ICT機器の活用研修を年間3回以上実施するとともに、実践事例の共有やミニ研修を適時行い、教職員の活用力の向上と日常的な授業への活用を促進する。 	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
次年度への改善点	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成 状況
<p>取組内容⑨【7 人材確保・育成としなやかな組織づくり（職場環境づくり）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○様々な教育課題の対応を円滑に行うことができるよう、児童一人一人に寄り添うための時間の確保や、教職員の健康保持及び長時間勤務の解消に取り組む。 ○ICT機器の活用による業務の効率化・能率化を推進するとともに、会議の精選や資料の共有化を図り、勤務時間の短縮につなげる。 ○「ゆとりの日」を週1回設定し、定時退勤を促進するなど、メリハリのある働き方の実現を図る。 ○中堅・ベテラン教員を中心としたメンター研修を計画的に実施し、若手教員への指導・助言や日常的な相談体制を充実させることで、組織的な人材育成を推進する。 	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体で共有する内容については、部会等で事前に十分に検討してから提案する、説明・報告内容を精選する等を全教職員が意識することで、会議の効率化を図る。 ・月2回の学年打合せに学年団が参加することで、学校全体で全ての児童を見守る体制を築くとともに、教職員間の対話の促進を図る。 ・「ゆとりの日」を毎週金曜日に設定し、全教職員に対して定時退勤の声かけを実施する。 ・メンター研修を月1回以上実施するとともに、若手教員への相談・指導を日常的に行い、組織的な人材育成を推進する。 	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
次年度への改善点	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
<p>取組内容⑩【9 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進（家庭・地域との連携）】</p> <p>○地域とのつながりを生かし、地域の方との交流やゲストティーチャーの招聘等を年間計画に位置付け、計画的に実施する。また、見守り隊やPTA活動と連携し、日常的な安全確保や教育活動の充実につなげる。</p> <p>○家庭・地域との協働を推進するため、学年だよりや学級通信、学校だよりやホームページ等を活用し、教育活動のねらいや児童の様子を分かりやすく発信する。また、連絡帳や保護者連絡アプリ等を通して迅速かつ丁寧に対応するとともに、保護者との共通理解を深めながら、信頼関係と支援体制の構築を図る。</p> <p>○児童が安心して学べる環境づくりのため、学習環境や設備の点検・整備を計画的に行うとともに、図書や教材の充実、地域人材の活用等を通して、学習環境および支援体制の充実を図る。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域とのつながりを生かし、地域人材との交流やゲストティーチャーの活用を年間10回以上実施する。 ・家庭・地域との協働を推進するため、学年だより、学校だよりを月1回以上、ホームページの更新を課業日は毎日行い、教育活動の様子を発信する。 ・学習環境の充実に向けて、校内の安全点検を毎月実施するとともに、教材や図書の整備を計画的に行う。 	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
次年度への改善点	